



じごぜんひろば

No.98 2020年(令和2年)4月1日

地御前地区自治会

5年生の学習発表

地御前小学校教頭 片平千恵

2月21日(金)本校で授業参観を行いました。5年生は1学期から学んできた総合的な学習の時間「地御前の水産業について詳しくしり、よさをまとめる」について、発表を行いました。5月に牡蠣養殖についての座学、7月に採苗に使う「ホタテ貝殻通し」作業体験、10月には牡蠣打ち体験をしたことをもとに「牡蠣の歴史」「牡蠣の種類」などグループ毎にまとめ、発表をしました。



ホタテ貝殻通し作業の様子

これは3年前から地御前郷土文化保存会、地御前漁業協同組合、地御前小学校による郷土愛を育む学習の一環で行われているものです。地御前に住んでいけば自然に目に入ってくる積み上げられたホタテ貝や干潟の棚(抑制棚)の光景ですが、5年生の子どもたちはこの学習を通じて牡



蠣養殖のプロセスや作業を知り、より意味のあるものになりました。指導をして下さった地元有志の方々はとりわけ微笑ましい表情で発表を見守って下さいました。

海や川にゴミを捨てないよう自然を大切にすることの意図を知り、歴史ある地場産業とそれに関わる大人たちが身近な存在になったことは意義深いことだと思えます。こういった交流を通じて顔見知りになった地元の方々と、これからも通学路で挨拶を交わしたり、「とんどまつり」でまた会ったり、「御陵衣祭」や「管絃祭」で出会ったりして絆が深まってゆくことも、とても素敵なことです。子どもたちの学習の機会に、時間を作って教えて下さる地御前の皆様に、たいへん感謝致しております。

令和2年新春懇談会



1月7日 地御前市民センター講堂にて、100名を超える方々が集まって、今年も盛大に新春懇談会が開かれました。
松本太郎市長や地元によかりのある衆議院議員、県議会議員、市議会議員や、市民センター長、小学校長、中学校長、保育園長、JA病院院長、看護部長、地域連携室長・事業局長、漁協組合長、農協支店長など大勢の方々も駆けつけて下さいました。町内会長、自治会、長寿会・婦人部などの各種役員も加わり、懇談を通じていろんな活動に関連した情報交換がありました。

これだけの方々一堂に会する機会は他にありません。大勢の方々の活き活きとした働きに地域活動が支えられていることを改めて実感します。今年も地元地御前において、様々な活発な活動を通じて絆が広がることを予感させる賑やかな会となりました。
後半のアトラクションとして麓海里(ふもとかいり芸名)さんによる三線演奏がありました。演奏中、来場者の飛び入り参加で沖縄民謡踊りの輪が広がるなど、地御前の一体感を感じました。麓海里さんは、仕事の傍ら仲間と沖縄民謡を中心に音楽活動をしておられる方で、昨年は地御前市民センターまつりでも演奏を披露して場を盛り上げてくださった方です。演奏後にお話してみると、何と地御前にお住まいで、未就学の子さんがおられるとのこと。今後も地域のいろんな活動でお会いする機会がありそうです。それも楽しみです。



1月7日(火)新春懇談会的一幕

地御前神社公衆トイレ

地御前神社は世界遺産・厳島神社の外宮であり、御陵衣祭や管絃祭といった歴史的祭事が行われています。現在ある地御前神社境内の公衆便所は、約50年前に地御前商店会によって造られたものですが、建替えは長年の懸案でした。この度、厳島神社のご協力・ご支援により新たな公衆便所が建てられます。地御前郷土文化保存会により、廿日市市行政関係者に幾度となくお願いして具体化されたものでもあります。現在の場所では排水先が無いため、有府川に面する線路側の場所に建設されます。3月4日に工事関係者らにより地鎮祭が執り行われ、工事の安全を祈願しました。御陵衣祭までに完成予定です。



清掃・美化は地元で行い、維持・管理される施設となります。観光旅行者にも必要とされる施設です。長く利便性が保てるよう、大切に利用しましょう。

国道開墾碑修復事業はじまる

地御前神社境内にある国道開墾碑は明治20年に地域の有志により建立されました。石碑の上部に「地平天成」の熟語が刻まれており、平成の改元の折には多くのマスコミにも取り上げられました。老朽化による倒壊の危険があるため、倒壊を防ぐための保全工事を行うことになりました。



この事業は、地御前郷土文化保存会(会長:磯邊忠利)を主体に、地御前地区自治会の賛同・協力および廿日市市社会福祉協議会の推奨を得て赤い羽根共同募金の配分金事業として行われます。各町内会での募金と赤い羽根共同募金からの配分金によって費用が賄われます。これを機に、地御前地域を知る財産として再認識され、身近な歴史に思いをはせるきっかけの一つになることが期待されます。(町内会事業部 藤咲俊昭)

ハッピーオレミ隊

保健体育事業部のミニユア隊として活動します。対象は5歳から上限無し。会費は無料です。
練習日は第1・3金曜日と第2・4火曜日の17時~18時30分です。
今年度の活動予定
5月 地御前地区運動会デビュー
10月 地御前市民センター祭り
11月 ビースウォーキング
自分たちで考え、地御前を盛り上げるように応援することを目的としています。いろんな事業にお呼ばれされるようになればと思っています。4月になればユニフォームを作ります。現在30名登録。今はパブリカの歌や踊りを練習しています。
(保健体育事業部 向佳)

編集後記

★新型コロナウイルス、世界中に伝播の様相。単なる疫病にとどまらず経済的にも社会的にも大きな悪影響を与え、オリンピックの開催も危惧される。防疫には手洗いと嗽の実行が肝要。暫くは不要不急の外出を控え、一刻も早い終息を願うばかりである。(Y.Y)
★新入学や卒業、就職の時期。嬉しいことも寂しいことも、両方があるからこそ進歩や成長。いずれにも感謝と愛情を持って接したいものです。(J.K)

発行 地御前市民センター内 広報事業部 地御前地区自治会

**地御前の生んだ画家
小林千古生誕150年**

今年 は地御前が生んだ幻の天才画家「小林千古」の生誕150年です。1月に市民センターで「小林千古生誕150年」の講演会が行われました。2月から約1か月半の間、廿日市美術ギャラリーで「小林千古と白馬会」も開催されました。



千古については彼の生誕の地である地御前小学校横に



「小林千古記念碑と案内板」が設置されており、金剛寺旧墓地に千古は静かに眠っています。また、地御前小学校では平成7年ころ、児童生徒に

歳の時に向上心と冒険心を抱き、移民たちと同じ船でハワイを経由してサンフランシスコに渡りました。



21歳の時にカルフォルニア州立大付属マーク・ホプキンズデザイン学校に入学し、学資を稼ぎながら語学を学びました。26歳の時に学内コンクールで成績優秀（ブラウン金碑）を受賞するなど非常に良い成績を収め卒業。この頃



「萬古（BAN KO）」と号するようになりましたが、その後千古に改めています。

28歳の時に一度帰国し、広島初の洋画展覧会を開いています。29歳にはハワイに画塾を開き、ドール大統領と故皇子女カイウラニ、ハワイ銀行頭取の肖像画を描き好評を得ました。

30歳でヨーロッパでの美術研究にパリへ渡り、ルーブル美術館などで数多くの名画に触れ、また黒田清輝・岡田三郎助らと親交しながら、さまざまな刺激を受け画業に研鑽します。33歳に帰国し、第5回国内勲業博覧会に《パッション》を送りましたが、裸体画であるため出品を断られたエピソードがあります。

帰国後上京し、黒田清輝や岡田三郎助が主要メンバーとなっていた白馬会創立10周年記念絵画展に出品し、日本画壇へ鮮烈なデビューを飾りました。36歳、黒田清輝と共に学習院女子部講師となり、翌年、助教授に任命されましたが、病のために辞職して帰郷しました。明治11年10月10日、41歳の若さで故郷の地御前で病没しました。

**「地御前ものがたり」が
ダウンロード可能に**

平成27年に刊行され、町内会加入全戸に配布された「地御前ものがたり」をご一読なさったでしょうか。地名の由来、極楽寺・地御前神社・弥山の位置関係、地御前にある寺社仏閣や祭事の概要、地元 の歴史や偉人紹介など豊富な内容を約100ページに読みやすくまとめたものです。

現在は地御前小学校卒業生に自治会から毎年贈呈されています。

この度PDF化され、廿日市市のホームページからダウンロードできるようになりました。検索エンジンで「地御前ものがたり」と入力すると見つけることができます。スマホに入れて隙間時間に読むもよし、散歩のガイドブックとして活用するもよし、是非ダウンロードしてみてください。



**グラウンドゴルフ目録
100回目を迎える**

長寿会会員の「仲間づくり、健康づくり」を目標に発足した「地御前グラウンドゴルフ愛好会」（担当部長…首藤国義（会員84名）は、今年で9年目を迎え、会員の大きな楽しみである月例会は100回目を迎えました。会員の皆さんは所期の目標通り、毎週、月曜日と水曜日9時からキラキラ公園で和気あいあい皆さん元気で楽しくプレイしています。特に、グラウンドに行けばすぐプレイできるよう、いつも練習前の準備をして下さる首藤担当部長さんをはじめ役員の方々のご苦勞には頭が下がります。感謝です。

月例会100回目の記念大会は、3月2日、廿日市老人連合会の会長石野義之氏の挨拶や優勝盾の寄贈があり、地御前長寿会連合会…井出昭生氏からも挨拶やヘッドライトの寄贈がありました。当日は快晴、参加者はそれぞれ16グループに分かれて熱戦を繰り広げました。ホールインワンが出る度にワーンと大きな歓声も上

がります。

熱戦の結果、優勝は男子の部の1位は和田さん59点、2位は江川さん68点、3位は長里さん69点。女子の部の1位は榎山さん75点、2位は森さん78点、3位は小方さん79点で、それぞれの方に石野会長より立派な優勝盾が渡されました。また、93歳で若い者以上になお豊鎌（かくしゃく）と元気にプレイを続けられる長門隆（金剛寺西）さんに、皆さんの大きな拍手の中、功労賞が贈られました。

誰にでもプレイできます。男女の差は全くなく、かえって女性の方がプレイは上手です。夫婦の参加者も多いです。年一回の遠征、春のお花見、年末の忘年会も行っています。グラウンドゴルフをやってみたい方はぜひ参加して、健康第一で楽しい仲間をつくり、みんな楽しんでみましょう。参加申し込みは各単位老連の会長役員まで。皆様の参加をお待ちしています。



入賞のみなさん

**地域学校協働本部の活動
野坂中学校の花植え活動**

港町 増本 直子

野坂中学校の入学式や卒業式では、パンジーを植えたプランターで花道を飾り、生徒を見送り、また迎えてきました。

PTA活動のひとつとして1・2年生、先生、PTA役員の有志とでその土作りや花植えを行い、世話をしました。

しかし、授業時間確保、放課後活動の制約、PTA活動スリム化、その他の事情で花植えの活動が途絶えそうになりました。

そこで花の世話を楽しくできるボランティアのグループを作ろうという声でPTA役員からあがり、子どもが卒業をしても有志で花植えが継続できるようにしようということになりました。それを機に材料費などをPTA予算と併せて確保し、地域学校協働活動としてスタートさせました。



今年度は、花植えのプロの指導のもと、ボランティアで集まってくれた中学生と一緒にプランターへの花植えを行いました。花壇や校門回りも華やかになるよう少しずつですが手入れをしています。花の世話を一緒に楽しくできるグループの活動が、学校や地域とのふれあいの場に色どりを添えてゆくものになるでしょう。

**民謡伝承講座に
のぞいてみませんか？**

地御前のように、唄・笛・太鼓・三味線の生演奏で盆踊りをしていく地域は少なくなっているのではないのでしょうか。昔から親しまれてきた民謡を後世に受け継いでゆけるように、毎月第3金曜日の夜7時から8時半に地御前市民センターで民謡伝承講座（練習会）が行われています。

先日の練習にはハッピーオレンジ隊（裏の記事を参照）の子どもたちが応援で参加してくれました。応援隊とはいえ、小学校低学年の子どもたちだったので、遊び半分になるのかと思いきや、どの子もみんなとても熱心に、礼儀正しい態度で学んでいました。そして歌や



三味線、笛に合わせて順番に太鼓を叩きました。児童から高齢者までの老若男女が一緒に演奏をすることがどれほど楽しいものか体験ができました。面目躍如の応援隊でした。

消えてゆく古いものがあり、生まれてくる新しいものがあります。民謡が何世代も歌い継がれてきたことは自然に起きたことではないと思います。その時代ごとの、その人々ごとのやり方で工夫をしながら世代間で受け渡されてきたものがあります。押し付けたり、押し付けられたいりして続くことではありません。

そんな、古くて新しいことに挑戦してみることで、日常生活の隙間に新しい風を取り入れてみませんか。月に一度の隙間を作って、是非あなたも足を運んでみてください。